

腎性貧血は透析合併症のなかでも治療可能であり、かつ治療により QOL や生命予後の改善に繋がる。一方、診断は除外診断が中心であり、他の原因貧血が複合的に関わる例もあり、まずは腎性貧血の診断を適切に行う必要がある。

腎性貧血治療に関し大きな障壁であったのは、ESA 低反応性と鉄欠乏・鉄過剰の問題である。ESA 低反応性症例は一般に生命予後が悪い、背景に慢性炎症や酸化ストレスによるヘプシジン上昇が潜んでいる。またその一端に鉄欠乏も関与するが、鉄剤投与による鉄過剰も懸念され、長期にわたる適切な鉄剤投与方法は未だに議論が続いている。鉄剤投与によりヘプシジンは上昇し、ESA 低反応性を悪化させる悪循環機構がある。

2020 年前後に経口腎性貧血治療薬 HIF-PH 阻害薬が登場し、腎性貧血治療に新たな時代が訪れ

た。ESA と異なり内因性にエリスロポエチンを上昇させ、かつ鉄利用率を高める効果があり、フェリチンやヘプシジンの低下が誘導される。このため ESA 低反応性症例に対しても貧血改善効果が認められる。ESA 低反応性症例を HIF-PH 阻害薬で治療することで、ESA 低反応性症例の生命予後を改善できるのか今後の臨床試験に期待が寄せられている。しかしこの薬剤は、多数の分子誘導を行うため思わぬ臓器合併症の出現も危惧されている。とくに VEGF 誘導による発がんの危険性が警告されている。

本特集では腎性貧血に造詣の深い執筆者に HIF-PH 阻害薬、ESA、鉄剤をめぐる重要な話題を解説いただいた。

(西 慎一)

2022 年 (Vol. 38) 特集のご案内

- No. ① 透析患者の心臓病—診療の最前線を学ぼう
No. ② 腎性貧血治療の課題と対策—HIF-PH 阻害薬、ESA、鉄剤をめぐる

- No. 3 チーム医療で透析患者を支援しよう (仮題)
No. 4 便秘と慢性腎臓病・透析医療

(既刊は○)

臨牀透析® Vol.38 No.2

© 2022 年 2 月 10 日発行
定価：2,860 円
(本体 2,600 円 + 税 10%)

年間予約購読は前金にて弊社あるいは書店宛お申し込み下さい。ただし、年間購読料は年度により異なりますので、弊社または書店までお問い合わせ下さい。

発行人 増 永 和 也

発行所 株式会社 日本メディカルセンター

〒 101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-64 神保町協和ビル

営業直通電話 (03) 3291-3901 (代) FAX (03) 3291-3904

編集直通電話 (03) 3291-3971 (代) FAX (03) 3291-3377

e-mail dialysis@nmckk.co.jp

URL <https://www.nmckk.jp>

郵便振替 00110-2-80695

印刷所 シナノ印刷株式会社

・ Published by Nihon Medical Center, Inc. ©2022, Printed in Japan

・ 本誌に掲載された著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権 (送信可能化権を含む) は (株) 日本メディカルセンターが保有します。

・ JCOPY < 出版者著作権管理機構 委託出版物 >

本誌のコピーやスキャン等による無断複製は著作権法上での例外を除き、禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に出版者著作権管理機構 (☎ 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail : info@jcopy.or.jp) の許諾を得てください。

■ 広告申込所 / 株式会社 文栄社 〒 113-0033 東京都文京区本郷 3-26-1 電話 (03) 3814-8541